

「朝明けに 主に祈る」
詩篇5篇(宣教要旨)
説教者 A.Na

本日から2回に分けて、この詩篇5篇を通して、主の御声に聞いていきたいと思ひます。

《備え》

旅行等の予定の場合…早くから準備！時間をかけてきちんと備える

定期的な事柄の場合…習慣化してきちんと備える or 慣れから適当な備え… 不十分!!

「朝明けに 私はあなたの御前に備えをし仰ぎ望みます」…私は、主の御前に入る前、主に礼拝を献げる前に、主を礼拝するその時を心待ちにし、喜びに満ち備えているでしょうか。

〈1～3節…主に献げる祈り〉

私のことばに耳を傾けてくださる主…私たちを造られ、愛し、すべてを知っておられる神である主。その主に「耳を傾けてください」と祈る。

私のうめきを聞き取ってくださる主…私の心の思いもすべて知っておられる。そして最善へと導いてくださる。御霊が与えられている私たち(使徒2章)のうめきを聞き取り、御霊がとりなしてくださる(ローマ8:26)。

ことば、うめきと続き、今度は叫びとなって主を求める。自分の祈りをあらゆる表現で表し、自分に今ある苦しみ、痛み、嘆きからの助けを、ただ主に求める。

その主は、王の王であり、その王なる神によってイスラエルの王とされたダビデは、真のすべての王なる神に祈りさばきを求める。

「朝明けに」…2回出てくる。「…夜回りが夜明けを待つのにまさって…」(詩130:5,6)、「…夜明けの見張りよりも先に目覚め…」(詩119:147,148)…都市の城壁を守っていた番兵を指す。暗闇の中、あらゆる危険をおぼえ不安な夜回り(番兵)は、夜明けの光を今か今かと期待し、待ち望み過ぎす。それよりもまさる主への待ち望み。その夜明けに、主の御前に備えをし仰ぎ望む。

〈4～6節…神はどのようなお方か〉

神とは私を造られ、私の祈りを聞いてくださり、あらゆるわざわい、困難から救ってくださる私の主。その主に、「あなたは」と親しく呼びかけ祈る。

唯一の聖である神は、いかなる罪、悪をも赦さず、道徳的不純や不完全さが全くないお方。主は唯一のさばき主なる王であり、義と公正をもって民をさばかれるお方(詩98:9)。

私たちは心碎かれ、主の御前にへりくだることが求められている(詩51:17)。しかし、神を神とせず、自分を神とし、高慢になってしまう…。

主に憎まれ、嫌われ、滅ぼされるとは、どんなに恐ろしいことか。しかし、本来私たちはそのような、神に滅ぼされるべき存在、罪ある者。高慢、誇り高ぶる心、偽り、神を欺く…自分自身それに気づけないことも…。

しかし、主のあわれみは計り知れない。イエス・キリストが私たちの罪の身代わりとなって神のさばきを受け、十字架上で命を献げてくださった。その贖いにより、私たちの罪はもうすでに赦され、救われている。

本来、主の前に入るにふさわしい者はいない。罪ばかりで、神が喜ばれない悪を行う者ばかり。しかし、イエス・キリストの贖い、この罪の赦しを信じる者は、新しくされる。主が御前に招き、主を礼拝するようにと備えさせてくださる。

私たちは、朝毎に主に祈りましょう。時間と場所を取り分けて、主の前に最良のものをお献げする、神を第一とする歩みをさせていただきましょう。まず、一日の始まりの最初の時、最も最善の時に、主を仰ぎ望み、主の御前に備えをしましょう。

